

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法科/1年	2021/前期	講義 (一部オンデマンド型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	佐倉正樹(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内 容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	カベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学		理学療法科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田保(実務経験有)
授業の概要				
生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上で大変重要である。本講義では生物の最小単位である細胞から講義を進め、生体内の化学反応、分子遺伝学について講義した後、生物の各器官系について順に講義していく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
細胞の構造、働きを理解する。 分子遺伝学を理解する。 生物の各器官系の構造、働きを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生命体のつくりとはたらき	生物の進化、生物の共通性、顕微鏡の歴史		
2	顕微鏡と細胞	分解能、細胞の構造1		
3	細胞の化学成分	細胞の構造2、細胞の成分		
4	体内の化学反応	代謝、確認テスト、酵素		
5	光合成と呼吸	光合成と呼吸		
6	細胞の増殖	細胞分裂		
7	ATPの生合成のまとめ	確認テスト、染色体		
8	遺伝情報の担い手	遺伝学の歴史1		
9	DNA複製・タンパク質の合成	遺伝学の歴史2		
10	ヒトの遺伝・変異	ヒトの遺伝学		
11	遺伝のまとめ	確認テスト、ホメオスタシス		
12	個体の調整1	呼吸系、消化系		
13	個体の調整2	循環系、免疫系1		
14	個体の調整3	免疫系2、神経系		
15	個体の調整4	内分泌系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅠ（入門）		理学療法科/1年	2021/前期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下（実務経験あり）
授業の概要				
講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識や、Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
情報化社会のモラルやセキュリティ対策などについて理解し実践できる。 Wordの基本的操作を理解し、文章を作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる				
回	テーマ	内容		
1	ネット社会で情報を安全に使いこなすために①	情報化社会のモラルとセキュリティ 個人情報や著作権の取り扱い		
2	ネット社会で情報を安全に使いこなすために②	Webやメールによるコミュニケーション モバイル機器の活用と管理		
3	Word	Wordの基本操作①		
4	Word	Wordの基本操作②		
5	Excle	Excleの基本操作①		
6	Excle	Excleの基本操作②		
7	Power Point	Power Pointの基本操作①		
8	Power Point	Power Pointの基本操作②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		確認テスト 課題・レポート	20.0% 80.0%	公欠以外の理由による課題の提出期限延長は認めない。 提出できなかった場合は、その課題

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅡ (基礎)		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	木下 (実務経験あり)
授業の概要				
資料を作成したり、プレゼンテーションを行うことができるようになるよう、様々なPC操作や資料・データの収集方法や活用方法を学ぶ 【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
word、Excel、pointの使用方法を理解し、プレゼンテーションを円滑に行うことができる。 プレゼンテーションに必要な資料・データを適切に収集したり、活用することができる。				
回	テーマ	内容		
1	wordとExcel			
2	wordとExcel			
3	wordとExcel			
4	powerpoint			
5	powerpoint			
6	powerpoint			
7	プレゼンテーション			
8	プレゼンテーション			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題・レポート	100.0%	60%未満の学生は再試験課題となります。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	丁子 (実務経験有)
授業の概要				
<p>近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。</p> <p>【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統計学の必要性について説明できる。</li> <li>・ 取り扱うデータの尺度について理解できる。</li> <li>・ 正規分布について理解できる。</li> <li>・ 研究で用いる必要な統計手法を選択できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	統計の基礎			
2	尺度	名義・順序・間隔・比率尺度		
3	検定			
4	t 検定	対応の有無		
5	Mann Whitney検定			
6	カイ2乗検定			
7	3群間の比較	分散分析とフリードマン検定		
8	相関と多重比較検定	相関分析とロジスティック回帰分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
すぐできる リハビリテーション統計 (南江堂、2012)		課題・レポート	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ科学		理学療法科/1年	2021/前期	演習 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中 聡之(実務経験有)
授業の概要				
身体活動が心身の健康を維持・増進するために効果的であることの知識を身に受け、実習を通して、自己の心身の状態と健康についての意識を高める。また、子ども、高齢者、障がい者など特性に配慮してスポーツを楽しむことを支援するための知識と技術を身につける。高齢者や障がい者がスポーツを安全に実践できるように運動の質や量を調整し、道具の工夫やルールについても学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の心身の状態を理解し、実践する運動の質や量を調整できる</li> <li>・支援者として他者の運動に関わることができる</li> <li>・障がい者がスポーツを楽しめる競技を知り、ルール等の工夫ができる</li> <li>・他者と協業を図りながらグループ活動が行える</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	概論	運動の基礎		
2	運動と健康	運動と健康との関係について		
3	ルールと道具	ビーチバレーボールを例に		
4	運動の実際	ビーチバレーボールを通しての実演		
5	ウォーキング	ウォーキングの効能		
6	探索健康ウォーキング	楽しみとウォーキング		
7	探索健康ウォーキングの実際①			
8	探索健康ウォーキングの実際②			
9	協働について			
10	自己主張と他者への配慮			
11	身体活動と協業			
12	グループ活動の実際①	協業活動を通して他者とのコミュニケーションを図る		
13	グループ活動の実際②			
14	グループ活動の実際③			
15	グループ活動の実際④			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		理学療法科/1年	2021/前期	演習(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	谷洋子・鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務				
授業終了時の到達目標				
食育の現状と課題について理解する。 日本と諸外国の食文化の違いを知る。 栄養素の種類とそれらの作用を理解する。 基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション エネルギーってなんだろう?カロリー、ワット、ジュールについて		
2	基礎代謝量	食事摂取エネルギー量		
3	ライフステージと食育、乳幼児と食育	乳幼児・児童期～青壮年期と食育、育会者と食育		
4	栄養素の種類と主な機能	摂取エネルギー量と消費エネルギー量の関係		
5	代謝量に影響する因子について	身体活動とエネルギー消費量		
6	基礎代謝量、活動代謝量	MBMなどの算出方法		
7	食品中の栄養素と健康	六大栄養素のはたらき		
8	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
9	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
10	調理実習②	米飯とみそ汁		
11	調理実習②	米飯とみそ汁		
12	調理実習③	サラダ		
13	調理実習③	サラダ		
14	調理実習④	チキン料理		
15	調理実習④	チキン料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		理学療法科/2年	2021/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収、ライフステージの栄養学を理解した上で傷病者(主に生活習慣病)の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五大栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。</li> <li>・ ライフステージ(幼児期、成人期、高齢期)の栄養学の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。</li> <li>・ 生活習慣病の基本的栄養管理を習得する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	栄養とは、栄養生化学 五大栄養素(1)	炭水化物(糖質、食物繊維)の生理的特性 たんぱく質(アミノ酸、必須アミノ酸)の生理的特性		
2	五大栄養素(2)	脂質(中性脂肪、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸)の生理的特性		
3	五大栄養素(3)	ミネラル、ビタミンの生理的特性		
4	栄養生理学(1)	栄養素の消化・吸収、消化器官		
5	栄養生理学(2)	栄養素の消化・吸収、消化液と消化酵素及び胆汁		
6	栄養生理学(3)	付属消化器官、肝臓、胆嚢のはたらき		
7	栄養生理学(4)	付属消化器官、膵臓のはたらき		
8	栄養素の代謝(1)	糖質の代謝、TCAサイクル		
9	栄養素の代謝(2)	たんぱく質の代謝、糖原性アミノ酸、オルニチン回路(尿素サイクル)		
10	栄養素の代謝(3)	脂質の代謝、 $\beta$ -酸化		
11	応用栄養学(1)	幼児期、成人期、高齢期の栄養特性		
12	応用栄養学(2)	やせ、肥満、低栄養の栄養アセスメント、栄養管理		
13	臨床栄養(1)	糖尿病の食事療法、食品交換表		
14	臨床栄養(2)	脂質異常症、高血圧症の食事療法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		レポートなどの課題提出 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境コーディネータ-論		理学療法科/2年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(30時間)	必須	梶直美(実務経験有)
授業の概要				
福祉住環境コーディネータ-3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネータ-3級試験に合格する				
回	テーマ	内 容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
3	第1章第2節第3節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
4	第2章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
5	第3章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
6	第4章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
7	第5章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
8	過去問	第45回 試験・解答解説		
9	過去問	第43回 試験・解答解説		
10	過去問	第42回 試験・解答解説		
11	過去問	第41回 試験・解答解説		
12	過去問	第40回 試験・解答解説		
13	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネータ-3級改訂5版 テキスト ・副教材:短期合格テキスト, 過去問		福祉住環境コーディネータ-3級試験合格	100.0%	不合格の場合は、 レポート課題

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法科/1年	2021/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働いているか見ていく。そして、自分について心理的分析してみ、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後には心理の発達について講義しまとめへとつなげていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	心理学概論		
2	心理学とは何か	心を扱うこと(倫理)		
3	感じるころ	知覚とは		
4	見るころ	視覚と錯覚		
5	学習について	条件付け		
6	動機づけ	内発的動機付けと外発的動機付け		
7	考えるころ	意識と無意識		
8	自己理解1	エゴグラムから自己を知る		
9	自己理解2	自分の性格を知る		
10	心理学からみた恋愛1	恋愛と心理学Ⅰ		
11	心理学からみた恋愛2	恋愛と心理学Ⅱ		
12	対人魅力と対人関係	対人魅力とは		
13	発達について1	乳幼児期の発達		
14	発達について2	児童期・思春期の発達		
15	まとめ	メンタルヘルスについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害福祉論		理学療法科/4年	2021/通年	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	中村 (実務経験あり)

授業の概要

本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験：病院勤務】

授業終了時の到達目標

「障害」の概念を理解することができる。  
自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。

回	テーマ	内容
1	概念	障害者の定義
2	理念と展開	障害者福祉とは
3	障害者の生活	生活実態
4	障害者福祉の歴史	
5	法体系	
6	障害者運動	歴史と意義
7	障害者と教育	
8	障害者と就労	雇用実態
9	自立支援法	
10	国際	障害者の国際動向
11	事例検討	
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況
14	事例検討	自身の障害者観について
15	まとめ	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		理学療法科/1年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	秋元・梶(実務経験有)
授業の概要				
実習・臨床場面における記載内容等の理解を助けていくために、英語その他について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。 2. 身体所見や検査所見の英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション リハビリ・健康の定義	リハビリテーションの語源、歴史、リハビリテーション療育などについての英語表記		
2	各職種の表記	リハビリテーションチームの職種の英語表現とその職種の内容		
3	身体各部の構造とその働き①	身体の一部(上下肢体幹)や骨・関節についての英語表記		
4	身体各部の構造とその働き②	関節運動の医学的表現と英語表記と実際のその動き		
5	肢位・体位	姿勢について仰臥位・伏臥位・座位・立位等の運動学的表現とその英語表記		
6	身体・検査所見	診断・検査の方法およびその英語表記		
7	発症から診断・治療・退院までの流れの一例	発症から診断・治療・退院までの流れについて例を挙げて英語表記		
8	筆記体で書かれたカルテを読み取る	筆記体の読み書きができるようになる		
9	カルテ記載項目の英語表記・略語①	略語で書かれる医学英語を知る		
10	カルテ記載項目の英語表記・略語②	略語で書かれる医学英語の読み書きができるようになる		
11	カルテ記載項目の英語表記・略語③	略語で書かれる医学英語で記録できるようになる		
12	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る①	CVA, RA, など		
13	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る②	Colles functionなど		
14	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る③	CP, COPMなど		
15	訓練室で用いる簡単な英会話	私は理学療法士の〇〇です。今日の調子はいかがですか? これから、リハビリテーションを始めましょう!		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特に指定なし。		期末試験 確認テスト	50.0% 50.0%	・医学英語は、カルテを読んだり、チーム医療のコミュニケーションツールとして重要です。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		理学療法科/1年	2021/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	秋元・山本・高原・中・丁子・木下・梶・白瀬・中川(実務経験有)
授業の概要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	『気づくこと』 (グループワーク)	見えているもの、気づくこと、異常や問題点 (グループワークの進め方を覚える)		
2	『気づくこと』 (グループワーク)	異常や問題点、解決方法、実施計画 (グループワークの進め方を覚える)		
3	ルールとモラルとマナー、身だしなみ、挨拶、お辞	社会人として守るべきこと、慣習、空気を読んだ行動、会話の間合い、行間を読むこと、身だしなみ、TPOを考えた挨拶、お辞儀の選択		
4	コーチング・ティーチング	コーチングとティーチング		
5	プライバシー配慮	個人情報保護、医療現場でのプライバシー配慮		
6	コミュニケーションの基本	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション		
7	ハウレンソウ	報告・連絡・相談		
8	敬語のつかいかた、言葉遣い	教員と学生、実習生とSVや患者。尊敬語と謙譲語。		
9	ハガキ・封筒の書き方	臨床実習でのお礼状の書き方		
10	電子メール・SNSでのマナー	電子メール・SNSでのマナー		
11	共感的態度	共感的な会話と態度		
12	感情のコントロール	自身の感情のコントロール		
13	電話のかけかた	臨床実習へ行く前に×電話のかけ方(実践編)		
14	表情・態度	表情や態度で相手を感じる印象、感情		
15	良好な関係作り	信用と信頼について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学 I (骨学)		理学療法科/1年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	西部 涼祐(実務経験有)
授業の概要				
骨スケッチや骨指標の触診を通して、骨の各部位の名称、筋の付着する部位の確認を行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>骨の構造を理解する。</li> <li>骨の各部位の名称を理解する。</li> <li>骨の筋の付着部を理解する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	骨格	人体を構成する骨、骨の形態、骨の特徴を表す用語		
2	骨の構造	肉眼的構造と顕微鏡的構造		
3	骨の発生とリモデリング	軟骨内骨化、膜内骨化、骨のリモデリング		
4	骨の発生とリモデリング	軟骨内骨化、膜内骨化、骨のリモデリング		
5	頭蓋骨	骨の部位名、スケッチ		
6	頭蓋骨	骨の部位名、スケッチ		
7	頸椎・胸椎・腰椎	骨の部位名、スケッチ		
8	頸椎・胸椎・腰椎	骨の部位名、スケッチ		
9	胸郭(鎖骨・胸骨・肋骨)、鎖骨	骨の部位名、スケッチ		
10	胸郭(鎖骨・胸骨・肋骨)、鎖骨	骨の部位名、スケッチ		
11	肩甲骨・上腕骨	骨の部位名、スケッチ		
12	肩甲骨・上腕骨	骨の部位名、スケッチ		
13	前腕・手・手指	骨の部位名、スケッチ		
14	前腕・手・手指	骨の部位名、スケッチ		
15	骨盤・大腿骨・膝蓋骨	骨の部位名、スケッチ		

回	テーマ	内 容		
16	骨盤・大腿骨・膝蓋骨	骨の部位名、スケッチ		
17	下腿・足・足趾	骨の部位名、スケッチ		
18	下腿・足・足趾	骨の部位名、スケッチ		
19	骨格系障害と理学療法	骨格系障害と理学療法、主な骨の病気		
20	骨格系障害と理学療法	骨格系障害と理学療法、主な骨の病気		
21	骨の構造の復習	肉眼的構造と顕微鏡的構造の復習		
22	骨の発生とリモデリングの復習	軟骨内骨化、膜内骨化、骨のリモデリングの復習		
23	頭蓋骨の復習	骨の部位名の復習		
24	脊椎、胸郭、鎖骨の復習	骨の部位名の復習		
25	肩甲骨・上腕骨、前腕骨、手・手指の復習	骨の部位名の復習		
26	骨盤・大腿骨・膝蓋骨・下腿骨・足部・足趾の復習	骨の部位名の復習		
27	頭蓋骨の触診	骨の触診、スケッチ、小テスト（口頭）		
28	脊椎、胸郭の触診	骨の触診、スケッチ、小テスト（口頭）		
29	肩甲骨・上肢帯の触診	骨の触診、スケッチ、小テスト（口頭）		
30	骨盤・下肢帯の触診	骨の触診、スケッチ、小テスト（口頭）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「解剖学第5版」医学書院 分冊 解剖学アトラス<1>運動器：平田幸男著：文光堂 プロメテウス 解剖学(コア)アトラス：坂井健雄：医学書院		期末試験 確認テスト(小テスト) 課題提出	60.0% 20.0% 20.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ (筋学)		理学療法科/1年	2021/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	石吾 亘(実務経験有)
授業の概要				
模型触診、動画視聴、イラストを通じて、筋肉を理解する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体を構成している筋名を列挙できる。</li> <li>・筋の起始・停止・支配神経が列挙できる。</li> <li>・筋の起始・停止や走行をイメージして、作用が理解できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	総論	筋学に関する総論		
2	肩甲骨周囲筋	体幹と肩甲骨を連結する筋 (肩甲骨の外転・内転、挙上・下制、上方回旋・下方回旋)		
3	肩関節の筋①	肩関節の筋(インナーマッスル) 肩甲上腕関節の運動		
4	肩関節の筋②	肩関節の筋(アウトマッスル) 肩甲上腕関節の運動		
5	肘関節の筋①	肘関節の屈曲・伸展 (肩関節・前腕の運動と併せて)		
6	上肢帯の筋①	肘関節より近位の筋を総合的にとらえる(層別) 神経支配に関するまとめ		
7	前腕～手指の筋①	前腕～手指の筋(掌側) 前腕・手関節の運動		
8	前腕～手指の筋②	前腕～手指の筋(背側) 前腕・手関節の運動		
9	手の筋①	手外筋 手指の運動		
10	手の筋②	手内筋① 手指の運動		
11	手の筋③	手内筋② 手指の運動		
12	上肢帯の筋のまとめ	肩甲帯～手指の筋、神経支配を総合的に理解する		
13	頭部・顔面の筋	表情筋・咀嚼筋		
14	頸部の筋①	頸部の前屈・後屈		
15	頸部の筋②	頸部の側屈・回旋		

回	テーマ	内容		
16	下肢帯の筋 股関節周囲筋①	下肢の筋に関する総論 内寛骨筋群		
17	股関節周囲筋②	外寛骨筋群 股関節の運動		
18	大腿の筋①	大腿の伸筋群 股関節・膝関節の運動		
19	大腿の筋②	大腿の内転筋群 股関節・膝関節の運動		
20	大腿の筋③	大腿の屈筋群 股関節～大腿部までの筋を総合的にとらえる		
21	下腿の筋①	下腿の伸筋群、腓骨筋群 足関節の運動		
22	下腿の筋②	下腿の屈筋群 足関節の運動		
23	足の筋①	母趾球、小趾球筋群 足部・足趾の運動		
24	足の筋②	中足筋群、足背筋群 足部・足趾の運動		
25	下肢帯の筋のまとめ 胸部の筋①	下肢の筋、神経支配を総合的に理解する 浅胸筋群		
26	胸部の筋②	深胸筋群、横隔膜 頭部～脊椎、胸郭の運動		
27	腹部の筋①	前腹部、側腹部、後腹筋 胸郭、体幹部の運動		
28	背部の筋①	固有背筋群 頭部～脊椎、胸郭の運動		
29	背部の筋② 胸腹部、背部筋のまとめ	背部浅層の筋 胸腹部・背部の筋、神経支配を総合的に理解する		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「解剖学第5版」 分冊 解剖学アトラス<1>運動器		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (神経学)		理学療法科/1年	2021/後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	佐藤洋平(実務経験有)

## 授業の概要

中枢神経疾患の特徴を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。  
【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。
2. 脳の構造と働きについて概説できる。
3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。

回	テーマ	内容
1	神経系総論	神経系の区分
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成
3	髄膜と脳室系	髄膜と脳室系の構成
4	神経系の発生	脊髄、脳、末梢神経の発生
5	脊髄	脊髄の外形と横断面
6	脳幹	延髄
7	脳幹	橋
8	脳幹	中脳、網様体
9	小脳	小脳の外形と区分
10	小脳	小脳の入出力と機能
11	大脳	間脳
12	大脳	大脳半球
13	大脳	大脳皮質と髄質
14	大脳	大脳皮質の機能局在
15	大脳	大脳基底核

回	テ ー マ	内 容		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	頸神経		
21	脊髄神経	頸神経		
22	脊髄神経	腰神経		
23	脊髄神経	腰神経		
24	脊髄神経	仙骨神経		
25	脊髄神経	仙骨神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 医学書院 病気がみえるVol.7 脳・神経 第2版		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅳ (内臓・脈管学)		理学療法科/1年	2021/後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	白瀬・山本(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、内分泌)の病態を理解するため、講義・演習を通して構造を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系: 心臓と、脳・上肢・下肢への血液供給を理解する</li> <li>・呼吸器系: ガス交換に関わる肺と、発生に関わる喉頭について理解する</li> <li>・消化器系: 胃、腸、肝臓、および嚥下にかかわる構造体を理解する</li> <li>・泌尿器系: 腎臓および排尿に関わる構造体を理解する</li> <li>・生殖器系: 男性では精巣および勃起と射精に関わる構造体を理解する 女性では卵巣と子宮の性周期における変化を理解する</li> <li>・内分泌系: 各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその主要作用を理解する</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	総論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	血管系	動脈と静脈、毛細血管、吻合と終動脈		
3	心臓(1)	位置、区分、弁、心臓壁の構成、心膜		
4	心臓(2)	刺激伝導系、栄養血管と神経		
5	動脈系(1)	肺循環、体循環、上行大動脈、大動脈弓		
6	動脈系(2)	胸大動脈、腹大動脈		
7	静脈系(1)	皮静脈、深静脈		
8	静脈系(2)	特殊循環系		
9	リンパ系(1)	毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節		
10	リンパ系(2)	リンパ本幹、リンパ性器官		
11	鼻	外鼻と鼻腔、副鼻腔		
12	咽頭	嚥下のしくみ		
13	喉頭	喉頭軟骨、喉頭筋、喉頭の連結、喉頭腔		
14	気管と気管支	気管と気管支		
15	肺	肺		

回	テ ー マ	内 容		
16	胸膜と縦隔	胸膜と縦隔		
17	消化器系（口腔）	口蓋、舌、歯、唾液腺		
18	食道、胃	食道、胃		
19	小腸、大腸	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸		
20	肝臓、胆嚢	肝臓、胆嚢		
21	膵臓、腹膜	膵臓、腹膜		
22	泌尿器系（1）	腎臓		
23	泌尿器系（2）	尿管、膀胱、尿道		
24	生殖器系（1）	男性生殖器		
25	生殖器系（2）	女性生殖器		
26	内分泌系	ホルモンと標的細胞		
27	内分泌腺の種類（1）	下垂体、松果体、甲状腺		
28	内分泌腺の種類（2）	上皮小体、副腎、膵頭		
29	内分泌腺の種類（3）	腎臓、視床下部		
30	内分泌腺の種類（4）	消化管、心臓、胸腺		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分 野 解剖学 第5版 病気がみえるvol.2 循環器 病気がみえるvol.4 呼吸器	期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅰ（呼吸・循環・代謝）		理学療法科/1年	2021/前期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	浅井・角畑（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患（循環器、呼吸器）の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液の機能を理解できる</li> <li>・循環器系の機能を理解できる</li> <li>・呼吸器系の機能を理解できる</li> <li>・代謝の機能を理解できる</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	総論	理学療法士と作業療法士との関連事項		
2	血液（1）	血液の組成と機能		
3	血液（2）	赤血球		
4	血液（3）	白血球、血小板		
5	血液（4）	血漿		
6	血液（5）	血液型		
7	心臓と循環（1）	血液の循環		
8	心臓と循環（2）	心臓の興奮と刺激伝導系		
9	心臓と循環（3）	心電図1		
10	心臓と循環（4）	心電図2		
11	心臓と循環（5）	血液の拍出と血圧		
12	心臓と循環（6）	心周期		
13	心臓と循環（7）	圧-容積関係		
14	心臓と循環（8）	心機能曲線		
15	心臓と循環（9）	血圧の調節		

回	テ ー マ	内 容		
16	心臓と循環（10）	微小循環と物質交換		
17	心臓と循環（11）	静脈還流		
18	心臓と循環（12）	臓器循環		
19	心臓と循環（13）	リンパ循環		
20	呼吸とガスの運搬（1）	外呼吸と内呼吸		
21	呼吸とガスの運搬（2）	気道と肺胞		
22	呼吸とガスの運搬（3）	呼吸運動		
23	呼吸とガスの運搬（4）	呼吸気量		
24	呼吸とガスの運搬（5）	ガス交換とガスの運搬		
25	呼吸とガスの運搬（6）	呼吸の調節		
26	呼吸とガスの運搬（7）	病的呼吸		
27	代謝と体温（1）	栄養素		
28	代謝と体温（2）	エネルギー代謝		
29	代謝と体温（3）	体温		
30	まとめ	国家試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 病気がみえるvol.2 循環器 病気がみえるvol.4 呼吸器		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ (泌尿器・内分泌・消化・感覚)		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	山本・白瀬 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患 (泌尿器、消化器、内分泌) の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器の機能を理解できる</li> <li>・酸塩基平衡を理解できる</li> <li>・消化器系の機能を理解できる</li> <li>・感覚器系の機能を理解できる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	概論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	泌尿器 (1)	腎臓の役割 1		
3	泌尿器 (2)	腎臓の役割 2		
4	泌尿器 (3)	腎臓の構造		
5	泌尿器 (4)	尿の生成		
6	泌尿器 (5)	クリアランス		
7	泌尿器 (6)	排尿		
8	泌尿器 (7)	尿の性状と排尿の異常		
9	酸塩基平衡 (1)	血漿のpH調節		
10	酸塩基平衡 (2)	アシドーシスとアルカローシス		
11	消化 (1)	消化器の役割		
12	消化 (2)	口腔内消化と嚥下		
13	消化 (3)	食道における食物輸送		
14	消化 (4)	胃の役割と消化		
15	消化 (5)	十二指腸における消化		

回	テ ー マ	内 容		
16	消化（6）	空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
17	消化（7）	大腸の役割		
18	消化（8）	肝臓の役割 1		
19	消化（9）	肝臓の役割 2		
20	感覚（1）	感覚とは		
21	感覚（2）	体性感覚		
22	感覚（3）	内臓感覚		
23	感覚（4）	特殊感覚 1		
24	感覚（5）	特殊感覚 2		
25	感覚（6）	特殊感覚 3		
26	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン		
27	内分泌（2）	内分泌機能とホルモン		
28	内分泌（3）	各腺から分泌されるホルモンの作用 1		
29	内分泌（4）	各腺から分泌されるホルモンの作用 2		
30	内分泌（5）	各腺から分泌されるホルモンの作用 3		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学 I (総論・上肢)		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	高原(実務経験有)
授業の概要				
身体運動を理解するための基礎知識を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・四肢と体幹の運動を理解するための基礎知識を学ぶ。</li> <li>・運動分析、動作分析を理解できる。</li> <li>・生活力学が理解できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、総論			
2	上肢帯と肩関節での上肢の運動①	関節と靭帯		
3	上肢帯と肩関節での上肢の運動②	上肢帯と肩関節での上肢の動き		
4	上肢帯と肩関節での上肢の運動③	上肢帯の筋、肩関節の筋		
5	肘関節と前腕の運動①	関節と靭帯		
6	肘関節と前腕の運動②	肘関節における前腕の動き、肘関節の筋		
7	上肢帯と上肢の運動			
8	手関節と手の運動①	皮膚、骨、関節と靭帯		
9	手関節と手の運動②	腱鞘、指背腱膜、手関節と手の運動		
10	手関節と手の運動③	手のアーチ、手の把持動作パターン		
11	手関節と手の運動④	手の機能姿勢、手の変形		
12	顔面および頭部の運動			
13	体幹の運動①	頸椎の運動		
14	体幹の運動②	胸椎と胸郭の運動		
15	体幹の運動③	腰椎の運動		

回	テーマ	内 容		
16	下肢帯と股関節の運動①	関節と靭帯		
17	下肢帯と股関節の運動②	股関節の動き		
18	下肢帯と股関節の運動③	股関節の筋		
19	膝関節の運動			
20	足の関節と足の運動	アーチの構造と機能		
21	下肢帯と下肢の運動			
22	姿勢・動作①	重心、立位姿勢		
23	姿勢・動作②	立位姿勢の異常		
24	歩行と走行①	歩行周期、異常歩行		
25	歩行と走行②	運動力学的分析		
26	運動発達			
27	呼吸・エネルギー代謝			
28	運動学習			
29	バイオメカニクス①	運動学的分析、円運動、モーメント		
30	バイオメカニクス②	運動法則、身体とてこ、骨と関節の運動		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学（第6版） 中村隆一 医歯薬出版株式会社		期末試験	100.0%	合計が60%未満の場合は、レポート課題を実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ		理学療法科/2年	2021/通年	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
<p>股関節、膝関節、足関節、体幹の各分野において構造・機能が理解できるように講義を実施する。  また、各関節の動きに関与する筋を覚え、触診し、動かせるよう演習を実施する。  各関節に関連した評価やストレッチについて演習する。  歩行分析についての講義後に、繰り返し分析練習を実施しレポートの作成をする。  【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>股関節、膝関節、足関節、体幹の各分野において構造・機能を理解することができる。  各関節の動きに必要な筋を覚え、動かし、説明することができる。  各関節に関連した評価手技やストレッチを行うことができる。  歩行分析をすることができる。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	股関節	股関節の機能解剖と運動学 股関節を構成する骨の特徴		
2	股関節	股関節の構造と機能		
3	股関節	股関節に関わる筋の作用		
4	股関節	股関節の運動学		
5	股関節	股関節に関与する疾患		
6	体幹(脊椎)	脊柱の機能解剖と運動学 脊柱の基本的構造、脊柱の関節構造		
7	体幹(脊椎)	頭頸部の機能解剖と運動学		
8	体幹(脊椎)	胸腰部の機能解剖と運動学		
9	体幹(脊椎)	仙腸関節の機能解剖と運動学		
10	体幹(脊椎)	脊柱に関与する疾患		
11	股関節、体幹(脊椎)	股関節、体幹(脊椎)の復習		
12	膝関節	膝関節の構造と機能		
13	膝関節	膝関節に関与する筋、運動学		
14	膝関節	膝関節の関与する疾患		
15	膝関節	膝関節の復習		

回	テーマ	内 容		
16	足関節	足関節の評価実践		
17	膝関節	膝関節の評価実践		
18	股関節	股関節の評価実践		
19	体幹（脊椎）	体幹（脊椎）の評価実践		
20	上肢（肩関節、肘関節、手関節）	上肢の評価実践		
21	歩行分析	歩行分析の基礎		
22	歩行分析	歩行分析のマップ作成方法		
23	歩行分析	歩行分析の実践方法		
24	歩行分析	歩行分析 実践①		
25	歩行分析	歩行分析 実践②		
26	歩行分析	歩行分析 実践③		
27	歩行分析	歩行分析 実践④		
28	歩行分析	歩行分析 実践⑤		
29	歩行分析	復習		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学 筋骨格系のキネシオロジー 機能解剖学的触診技術（上肢・下肢） 運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈（上肢・下肢）		期末試験	50.0% 50.0%	前期 期末試験 100% 後期 歩行分析レ ポート、期末試験 各50%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常発達について</li> <li>・発達心理学について</li> <li>・小児疾患における運動発達の問題点について</li> <li>・発達障害について 【実務経験】病院勤務</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
小児の運動面、認知面の発達に関する知識及び生涯にわたる発達の意味を理解する				
回	テーマ	内容		
1	小児の保健概論	身長と体重の変化 スキヤモンの発達曲線 発達に関する定義		
2	胎児の運動発達	胎芽と胎児の発達過程 早期産、未成熟児の抱える問題について		
3	1歳児までの粗大運動の発達について1	原始反射、姿勢反射・反応について		
4	1歳児までの粗大運動の発達について2	首のすわり、寝返りの獲得までの発達のポイントについて		
5	1歳児までの粗大運動の発達について3	座位獲得の意味するところについて		
6	1歳児までの粗大運動の発達について4	立ち上がり、歩行獲得までの発達のポイントについて		
7	1歳児以降の運動の発達について1	3歳までの粗大運動の発達過程について		
8	1歳児以降の運動の発達について2	4～6歳までの粗大運動の発達について		
9	手の機能と摂食・嚥下機能の発達について	粗大運動の発達をベースにした微細運動の発達過程について		
10	発達心理学概論1	感覚・知覚・認知の発達、知的活動の発達、心の理論		
11	発達心理学概論2	エリクソンの発達課題、老年期の課題		
12	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP)1	脳性まひの発達における困難さについて(両麻痺、四肢麻痺)		
13	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP)2	脳性まひの発達における困難さについて(片麻痺、アテトーゼ)		
14	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP以外の)3	筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症の発達における困難さについて		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LD児の有する発達上の困難さについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達学 上杉雅之監修 医歯薬出版		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		理学療法科/1年	2021/後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	野口、田中、高木(実務経験有)
授業の概要				
全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	総論①(先天異常、代謝障害)	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②(進行性病変、循環障害)	進行性病変、循環障害		
3	総論③(炎症、腫瘍)	炎症、腫瘍		
4	総論④(免疫病理と感染症)	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正期生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、膵臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺照男 編 ニューベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		理学療法科/1年	2021/後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げても解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。 カウンセリングの流れを知る。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学とは	臨床心理とは?臨床心理学総論		
2	乳幼児のころ	乳幼児期		
3	乳児期のころ	幼児期		
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題		
5	児童期のころ	児童期		
6	思春期のころ	思春期①		
7	思春期のころの問題	思春期②		
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期		
9	カウンセリング1	カウンセリングについて~導入~		
10	カウンセリング2	カウンセリングについて~方法~		
11	カウンセリング3	カウンセリングについて~解釈~		
12	カウンセリング4	カウンセリングについて~解釈~		
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング		
14	保護者支援	保護者支援		
15	まとめ	復習とまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学		理学療法科/2年	2021/通年	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(30時間)	必須	北野(実務経験あり)

授業の概要

整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。  
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

整形疾患の病態と治療課程について理解する。

回	テーマ	内容
1	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論	骨と軟骨と関節について
2	脊椎、脊髄損傷	脊髄損傷
3	末梢神経損傷	神経断裂
4	スポーツ障害と外傷	種々の疾患・病態・治療法など
5	上肢・胸郭の外傷、骨盤・下肢の外傷	種々の疾患・病態・治療法など
6	頸椎疾患・胸椎・腰痛疾患	種々の疾患・病態・治療法など
7	慢性関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など
8	関節リウマチとその類縁疾患	寛解レベル
9	肩・肘関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など
10	手関節・手指の疾患	種々の疾患・病態・治療法など
11	股関節疾患	大腿骨骨折中心に
12	膝関節疾患	変形性膝関節症を中心に
13	足関節・足趾の疾患	種々の疾患・病態・治療法など
14	骨軟部腫瘍、先天異常・系統疾患	癌
15	まとめ1	整形疾患全般に関わるうえでのリスク
16	まとめ2	整形疾患全般

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
『標準整形外科学 第12版』松野丈夫 著 医学書院 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 整形外科学第3版』立野勝彦 著 医学書院	期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学 I (総論)		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	山田、本藤、北沢、刀塚、平谷、平名 (実務経験者)
授業の概要				
内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する				
1. バイタルサインを正しく測定できる 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる				
回	テーマ	内 容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	症候学	症候とは何か 主要な症候を生じる病態と関連疾患		
3	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
4	循環器疾患 2	主要な症候		
5	循環器疾患 3	診断法		
6	疾患各論 1	高低血圧症、心疾患		
7	疾患各論 2	大動脈疾患、末梢血管疾患		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理		
9	呼吸器疾患 2	主要な症候と病態生理		
10	呼吸器疾患 3	臨床検査所見		
11	疾患各論 1	COPD、肺疾患		
12	疾患各論 2	呼吸不全、異常呼吸		
13	血液・造血器疾患	主要な症候と病態生理		
14	代謝性疾患	主要な症候と病態生理		
15	まとめ、復習	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2021/通年	講義 （一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（30時間）	必須	山田、篠田、柳川 塚田、今井（実務経験あり）

授業の概要

内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・消化器・血液・内分泌疾患の各論について理解を深める。療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。

1. バイタルサインを正しく測定できる。
2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める。
3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。
4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。
5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。

回	テーマ	内容
1	消化器疾患1	消化器疾患 消化管の解剖と生理
2	消化器疾患2	消化管疾患の症候とその病態生理、検査法
3	消化器疾患3	消化管疾患各論
4	肝胆膵疾患1	肝胆膵疾患 肝臓、胆道系、膵臓、腹膜の解剖と生理
5	肝胆膵疾患2	肝胆膵疾患、腹膜疾患の検査・診断法と各論
6	内分泌疾患1	内分泌疾患 総論、内分泌腺の総論、解剖と生理
7	内分泌疾患2	内分泌検査法、内分泌疾患各論
8	腎・泌尿器疾患1	腎・泌尿器疾患 腎臓の解剖と生理
9	腎・泌尿器疾患2	腎疾患の症候と病態生理、検査法
10	腎・泌尿器疾患3	腎・泌尿器疾患各論
11	電解質異常	電解質代謝
12	アレルギー疾患	免疫系の働き、アレルギー疾患の各論
13	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症の各論
14	感染症1	感染症総論
15	感染症2	感染症各論
16	まとめ	復習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料	期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学 I (総論)		理学療法科/1年	2021/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	神経学的診断と評価	神経学的診断の実際、体幹・四肢の診療と検査 障害の評価		
2	神経学的検査法	画像診断、神経生理学的検査、自律神経機能検査 腰椎穿刺と血液生化学検査		
3	神経症候学	意識障害、脳死、植物状態		
4	神経症候学	頭痛、めまい、失神		
5	神経症候学	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
6	神経症候学	錐体外路徴候、不随意運動		
7	神経症候学	運動失調		
8	神経症候学	感覚障害		
9	神経症候学	高次脳機能障害：総論、失語症		
10	神経症候学	高次脳機能障害：失認、失行		
11	神経症候学	高次脳機能障害：記憶障害		
12	神経症候学	高次脳機能障害：注意障害、遂行機能障害		
13	神経症候学	構音障害		
14	神経症候学	嚥下障害		
15	神経症候学	脳神経外科領域疾患の代表的症候		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ (各論)		理学療法科/2年	2021/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	松田・山谷 (実務経験あり)
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では疾患各論でそれぞれの疾患特性についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各神経疾患の疾患特性に関する基礎知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害	脳血管障害とは、脳血管障害の症状と分類 脳血管障害の診断と治療		
2	認知症	認知症とは、認知症の鑑別診断、治療可能な認知症		
3	脳腫瘍	脳腫瘍とは、脳腫瘍各論		
4	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の概要、外傷性脳損傷の症状と治療		
5	脊髄疾患	脊髄損傷、脊髄損傷の随伴症状と合併症 脊髄損傷の心理的問題、訓練、日常生活		
6	変性疾患、脱髄疾患	変性疾患、脱髄疾患		
7	錐体外路の変性疾患	錐体外路の変性疾患の定義、錐体外路疾患各論		
8	末梢神経障害	末梢神経障害の分類、末梢神経損傷、末梢性ニューロパチー		
9	てんかん	てんかんとは、てんかんの診断と治療		
10	筋疾患	ミオパチーとは、進行性筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、先天性ミオパチー、多発性筋炎、周期性四肢麻痺、 中央神経系脱髄性筋疾患、筋無力症		
11	感染性疾患	神経系の感染、感染性疾患各論		
12	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患		
13	小児神経疾患	小児の診方、脳性麻痺、二分脊椎		
14	神経疾患に多い合併症	廃用症候群と誤用症候群、合併症		
15	神経疾患に多い合併症	排尿障害、性機能障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		理学療法科/2年	2021/通年	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	江守(実務経験あり)

授業の概要

精神医学における主要疾患の症状、診断、治療法について述べ、精神療法の概要についての理解を深める。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・精神医学における主要疾患の症状、診断、治療について説明することができる。
- ・精神療法の概要について理解することができる。

回	テーマ	内容
1	総論	精神医学とは
2	精神症状1	精神障害の成因と分類
3	精神症状2	精神機能の障害と精神症状
4	精神科診断学1	精神障害の診断と評価
5	精神科診断学2	脳器質性精神障害
6	症状性精神障害	精神症状を伴う身体疾患
7	精神作用物質による精神および行動の障害	薬物依存
8	精神疾患1	てんかん
9	精神疾患2	統合失調症
10	精神疾患3	気分(感情)障害
11	精神疾患4	神経症性障害
12	成人のパーソナリティ	行動・性の障害
13	コンサルテーション	リエゾン精神医学
14	精神障害の治療とリハビリテーション	精神科リハビリテーション
15	精神保健医療と福祉、職業リハ	精神保健福祉法

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
『学生のための精神医学 第3版』太田保之・上野武治編	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法科/2年	2021/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、正常発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論	概論		
2	診断と治療の概要	診断と治療の概要		
3	新生児・未熟児疾患	先天異常と遺伝病		
4	先天異常と遺伝病	種々の疾患と症状		
5	神経・筋・骨系疾患	種々の疾患と症状		
6	循環器疾患	種々の疾患と症状		
7	呼吸器疾患	種々の疾患と症状		
8	感染症、消化器疾患	種々の疾患と症状		
9	内分泌・代謝疾患	種々の疾患と症状		
10	血液疾患	種々の疾患と症状		
11	免疫・アレルギー疾患	種々の疾患と症状		
12	腫瘍性疾患	種々の疾患と症状		
13	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待	種々の疾患と症状		
14	重症心身障害児	種々の疾患と症状		
15	眼科・耳鼻科的疾患	種々の疾患と症状		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)「小児科学」第5版		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学(栄養・医用画像・薬理学・救命救急)		理学療法科/2年	2021/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	秋元俊子(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。</li> <li>・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。</li> <li>・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。</li> <li>・救急時の対応について理解する(AED含む)。</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	糖尿病の栄養学			
2	脳血管疾患の栄養学			
3	内科疾患における栄養学			
4	正常画像所見 1	X-P, MRI, CT, エコーの正常画像の読影(運動器)		
5	正常画像所見 2	X-P, MRI, CTの正常画像の読影(脳、内臓)		
6	疾患別画像所見 1	運動器疾患(骨折、筋・靭帯断裂)		
7	正常画像所見 2	脳血管疾患(脳梗塞、脳出血) 部位と症状		
8	正常画像所見 3	呼吸・循環器疾患		
9	薬理学 1	リスク管理に必要な薬剤の知識 1		
10	薬理学 2	リスク管理に必要な薬剤の知識 2		
11	薬理学 3	リスク管理に必要な薬剤の知識 3		
12	薬理学 4	リスク管理に必要な薬剤の知識 4		
13	救急救命 1	AEDについて		
14	救急救命 2	一次救命処置		
15	救急救命 2	一次救命後の対応		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特定の教科書は使用せず		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論		理学療法科/1年	2021/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	木下 (実務経験あり)
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションと医学についての基礎的な知識を学ぶ授業となる。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術：自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度：専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内容		
1	リハビリテーションとは何か①	リハビリテーションの歴史、定義		
2	リハビリテーションとは何か②	事例を通して考えるリハビリテーション		
3	リハビリテーションの理念	障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動		
4	リハビリテーションの目標	ADLとQOL, 健康		
5	リハビリテーション専門職の役割①	理学療法士・作業療法士		
6	リハビリテーション専門職の役割②	他職種との役割		
7	チーム医療	チーム医療をめぐる動向 他職種連携の基本・原則・課題		
8	障害の階層とアプローチ①	ICIDH		
9	障害の階層とアプローチ②	ICF		
10	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
11	ライフステージにおける障害特性	ライフサイクル, 乳児・児童・青年・成人・老年期		
12	リハビリテーション関連法規	医療法, 福祉六法, 障害者総合支援法など		
13	回復段階によるリハビリテーション①	急性期・回復期		
14	回復段階によるリハビリテーション②	生活期		
15	リハビリテーション再考	まとめと復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	課題は全てポートフォリオとして1つのファイルにまとめて保管し、提出すること。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学		理学療法科/4年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中山吉宣(実務経験有)
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務(獣医師)				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計(出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、)		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生(生態系、地球希望の環境、公害、廃校、廃棄物処理、放射線)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる: MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障論		理学療法科/4年	2021/後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	梶直美(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、社会福祉全般についての理解を深め、社会福祉の歴史、理念、社会福祉制度、社会保障、社会福祉援助技術などの概要を述べる。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
社会保障の目的について理解できる 社会保障制度について理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	概論	社会保障とは		
2	社会保障制度	範囲と理念		
3	社会保険	構造		
4	社会扶助	構造		
5	国民年金	実態と近年の動向		
6	厚生年金保険			
7	共済年金			
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
多職種連携		理学療法科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	秋元俊子(実務経験あり)
授業の概要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括ケアシステムについて理解する。</li> <li>・ 医療における他職種連携について理解する。</li> <li>・ 介護保険下での多職種連携について理解する。</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて			
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
6	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
7	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
8	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	